

2年1組

ぼうけんしよう、はっけんしよう

～ものを、たのしさを、くらしをつくる～



「オッケー、ナイス！」

2年1組では、昨年度から継続して『レンガのべっそう』づくりを進めています。7月は、屋根の骨組みづくりを行いました。子どもたちの様子を見ていると、屋根づくりは算数と図工が混じり合った活動のようでした。算数では、『長さ』や『筆算』の学習をしていたので、算数で学んだことを活用しながら屋根づくりをしていました。

屋根の骨組みがすでに完成している3・4班は、骨組みの上にかけるポリカ波板のサイズを調べなくてはなりません。Nさん・Rさん・Tさんの3人が、30cmものさしを使いながら「30cmと8cmだから38cm。こっちは44cm。ここは46cmだから、はじからここまでは・・・」と地面に筆算を書きながら計算をして長さを求めていました。教師が、「この木の幅は入れなくていいの」と聞くと、Tさんがさっとものさしを木に当てて「4cmだ」と言い、その幅も足しながら端から端までの長さを求めていました。

この日、骨組みを作る1・2班は、175cmの木材を9本つくることから始まりました。Rさんが教室からもってきた教師用の100cmものさしも使って印をつけていき、KさんやAさん達のがこぎりで木材を切っていました。9本の木材が揃うと今度は、等間隔で並べていかなければなりません。「なんかここ広いよ」「こっちは狭いよ」と声を掛け合う中、教師が、「同じ長さにするにはどうしたらいいかな」と問いかけました。すると、Yさんが「この横棒が何cm分かれば真ん中を見つけられるんじゃないかな」と提案

しました。そこから100cmものさしを当てて印を付けていきました。印が付くたびにRさんが「オッケー、ナイス！」とみんなに声を掛けます。ものさしを押さえる人と印を書く人が協働しながら端まで辿り着くと、404cmであることがわかりました。そこから404cmの半分は202cmということを引き出していきました。ここで終わりではなく、半분을更に4つに分けなければなりません。「だいたい200だから4つに分けると50cmくらいだね」と計算が得意なOさんが言い、50cmごとに印を付けていきました。最後に私がネジを留め、無事に屋根の骨組みが完成しました。「やったー、できた！」と満足気な子ども達でした。

この日の屋根づくりは、算数の必要性を感じた時間になりました。子どもたちが工夫をしながら長さを測っている姿、友だちと声を掛け合いながら活動する姿を見て、これが『學』であると感じました。スケールを使って測ってしまえば、このような追究は生まれなかったことでしょう。これほど協働しながら長さを調べてつくった屋根は「ぼくたち・わたしたちの屋根」になることでしょう。できた屋根を見上げてこの日のことを思い出してほしいなと思いました。



「好きになった」

5月25日、茶臼山動物園と繊維学部附属農場にふれあいの旅へ出かけました。「動物が飼いたい」という思いは以前からあったものの、どんな動物が自分たちには飼えそうなのか、その動物とどんなくらしをつくっていききたいのかということが漠然としており見通せていませんでした。

子ども達の心は、この一日を通して大きく動いたようです。茶臼山動物園でモルモットを膝の上にさせてもらい撫でるとOさんは、「くすぐったいよ」と体をモジモジさせ、Mさんは、「先生のうさぎと同じで、毛が白から目が赤いよ」と、特徴に気がつきました。Nさんは、「やっぱりモルモットが飼いたくなかった」と思わず心の声をつぶやきました。Mさんが飼育員さんに、「なんでいっぱい毛が抜けるの」と質問すると、「暑くなってきたからだよ。」と、教えてもらいました。Rさんは獣医さんに、「抱っこしたら、プルプル震えていたよ。どうしてかな。」と聞くと、「みんなと同じようにこわいとプルプルするんだよ。」と優しく答えてくれました。

感想を言う場面でSさんは、「好きになった」と話しました。Sさんはモルモットが膝の上に置かれると、背中をワシャワシャと撫でました。モルモットがそれに反応して動くと、Sさんが驚きとくすぐったさでモジモジと動きました。この手触りや反応からSさんは「好き」という気持ちが湧いてきたのだらうと思います。

「モルモットを飼いたい!」

生活科の大きな目標は、『自立し生活を豊かにしていくこと』とされています。2年生になった今年は、また一回り自立し、生活を豊かにしていきたいと思い、学級の歩みを踏み出しました。

2年生が始まり4か月が経った今、この言葉を思い返すと、『生活が豊かになると子どもは自立する』ということを感じます。子どもたちに、「どんなくらしをつくっていききたいのか」と、聞いたことがあります。その時、子どもたちが話したことは、「動物を飼うともっと楽しくなる」「世話をがんばるとほかのこともがんばれそう」ということでした。実際にモルモットを迎えてみると、子ども自ら発案し行動していく、まさに自立していく姿がありました。

7月7日にモルモットを迎えに戸隠牧場へみんなで行きました。翌週からモルモットとのくらしが始まりました。当番を組んで部屋のお掃除やえさやりをしたり、遊び場をつくって遊ばせたりしました。そんな中、ある日の休み時間に「モルモットのふれあいコーナー」が始まりました。自分たちでスペースをつくり、呼びかけに行き、来た子にふれあいの仕方を伝えていました。茶臼山動物園の山上獣医さんにしてもらったように、「お尻を手でささえてね」「背中をなでてね」「手は口の前に出すと噛むことがあるよ」と声をかけていました。動物園でのモルモットとのふれあいで心が動いた子どもたちは、そこでの経験を自分のものとし、他の人へと伝えていきました。これが主体的に学ぶということだなと感じました。動物を飼うことでどんな学びがあるのか、ただ飼いたいという気持ちだけで本当に学びは生まれるのか、という疑問は少なからず私も持っていました。しかし、今なら自信をもって、「そこに学びはあります」と言えます。自ら生活を豊かにしていくという素晴らしい学びがここにあります。



↑ 5月25日茶臼山動物園でのふれあい



↑ 7月14日 2年1組ふれあいコーナー